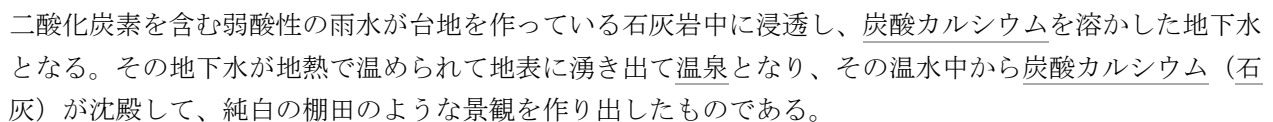


ヒエラポリス-パムツカレ

ヒエラポリス-パムッカレはトルコ西部・デニズリ県にあるユネスコの世界遺産（複合遺産）の登録名。パムッカレは石灰華段丘からなる丘陵地の名前であり、2世紀頃、ヒエラポリスというローマ帝国の都市が存在した。現在は遺跡が残る。

パムツカレ



使用方法・表示



トラバーチンでできた石灰華段

棚田の畦の部分は、流れてきた植物片などがひっかかり、これに石灰分が沈着して次第に堤のように成長する。これは温水が畦を越流する時に石灰分の沈積が化学的に加速するためでもある。このような景観が約200mの高さにわたって形成されている。規模はずっと小さいが、同種の微地形が鍾乳洞内にもみられることがあり、これを畦石池という。

ヒエラポリス遺跡

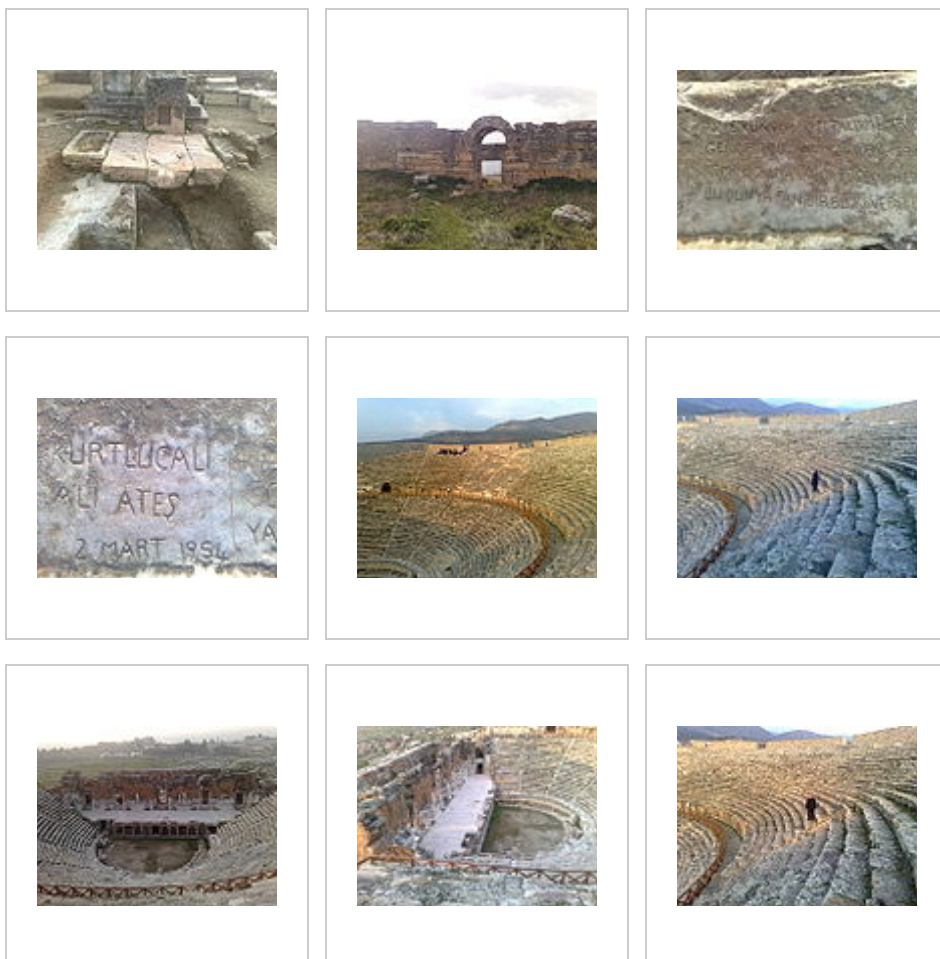
パムッカレの石灰華段丘の一番上にある遺跡。ローマ帝国の温泉保養地として栄えた。ローマ帝国時代にも地震で破壊されるが、その後復興。しかし1354年の大地震で完全に廃墟と化す。ローマ劇場、ローマ浴場が残る。

世界遺産基準

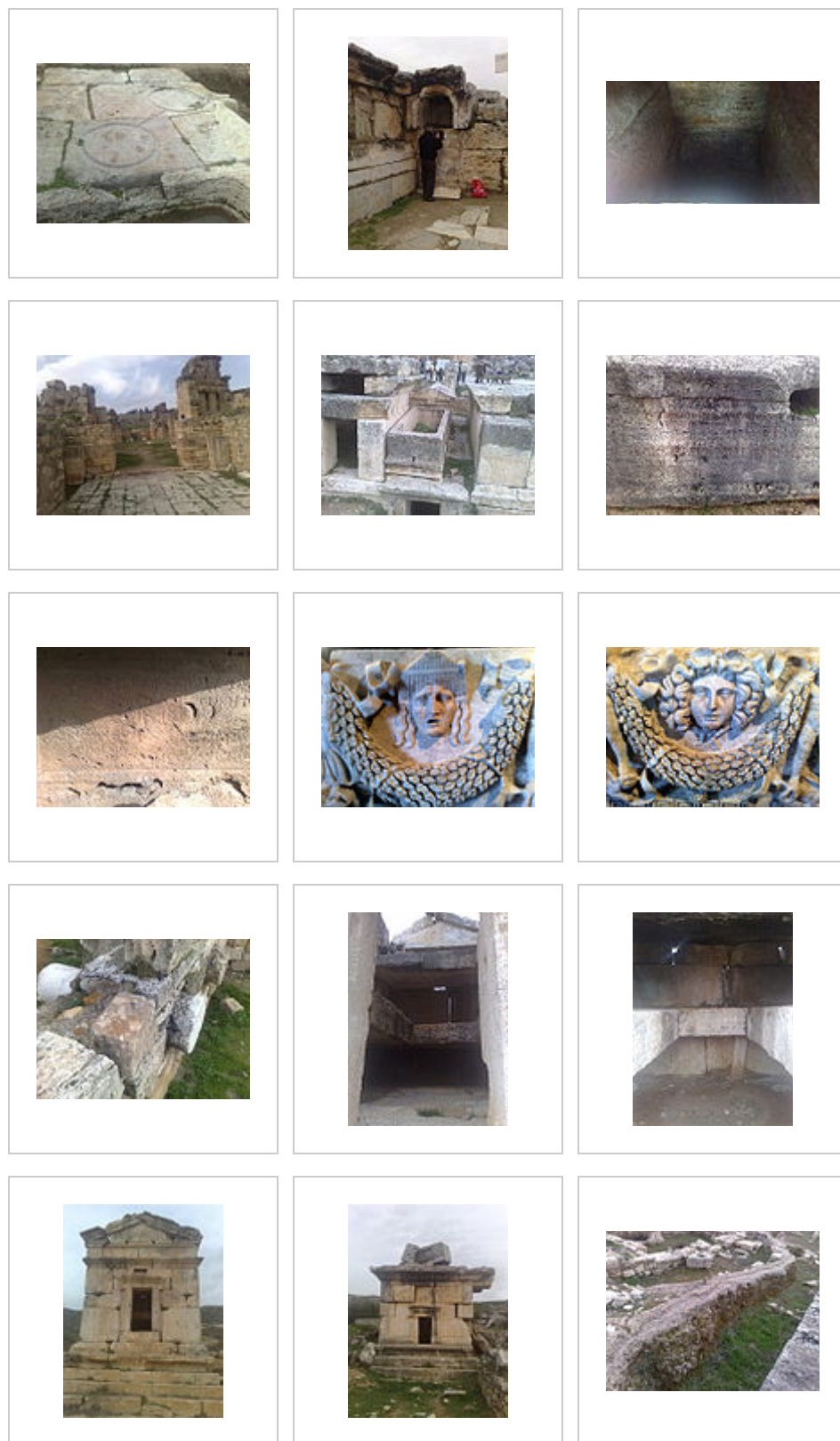
この世界遺産は世界遺産登録基準における以下の基準を満たしたと見なされ、登録がなされた（以下の基準は世界遺産センター公表の登録基準 (<https://whc.unesco.org/en/criteria>)からの翻訳、引用である）。

- (3) 現存するまたは消滅した文化的伝統または文明の、唯一のまたは少なくとも稀な証拠。
- (4) 人類の歴史上重要な時代を例証する建築様式、建築物群、技術の集積または景観の優れた例。
- (7) ひとときわすぐれた自然美及び美的な重要性をもつ最高の自然現象または地域を含むもの。

ギャラリー







脚注

- [^] 『ニュートン』 2017年5月号、ニュートンプレス、 50頁。

「<https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=ヒエラポリス-パムツカレ&oldid=72788413>」から取得

最終更新 2019年5月18日 (土) 02:21（日時は個人設定で未設定ならばUTC）。

テキストはクリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンスの下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は利用規約を参照してください。